

2008年の主要水産物の需要と供給

単位：数量，1000トン、価格，円/kg

年	数 量						価 格						
	生 産	陸上 加工	輸 入	輸 出	東京	缶詰	在 庫	生産額 (億円)	輸入 (億円)	輸出 (億円)	東京 魚介類消費 支出1世帯	為替 レート	
19	5,696	1,930	2,890	612	622	113	1,202	16,539	16,332	2,382	857	91,763	118
20			2,767	519	617		1,173		15,636	2,083	844	88,594	103
%	0	0	96	85	99	0	98	0	96	87	98	97	88

数 量

本年の国内生産量はほぼ前年並みと推定される。

全体的な特徴としては多獲性回遊魚のサンマやサバ類が順調に生産を伸ばしたが、イワシ類は減産となったのを始め、スルメイカの減少が顕著であった。

大きく増加した魚種は、上記サンマやサバ類、ムロアジ、ホッケ等であり、大きく減少した魚種は生・冷ビンナガ、生メバチ、冷カツオ、イワシ類、生・冷ともスルメイカ等であった。

輸入は、277万トンと為替円高だったが、不安定さや各国との買い付け競合等もあって引続き前年をやや下回った。

本年は、目立って多くなったのはサバやニシン、カジキ類程度で、概ね減少基調の魚類が多かった。

近年増加基調が続いていた輸出は、約51.9万トンで前年（61.3万トン）を本年は為替円高もあり減少した。

目立って多くなったのは国内生産が安定しているサンマで他にはカツオが若干増加した程度で、他の魚類は概ね減少となり、下半期の金融危機の勃発の中で輸出攻勢にストップがかかった格好となった。

東京の入荷量は、61.7万トンでほぼ前年（62.2万トン）並みであった。

在庫量は、月平均117万トン引き続き前年（120万トン）をやや下回りやや在庫は少なくなっている。こ

価 格 ・ 金 額

本年の産地価格の特徴は、漁が好調であったビン長を除いたマグロ類や海外相場の高騰を反映した冷カツオ、漁獲が減少し且つサイズが大きかったサバ類が前年を上回った。本年も総じて大きく下がった魚種はホッケとスルメイカ位で少なかった。

東京消費地価格は、844円でほぼ前年（857円）並みであった。

輸入金額は、1兆5636億円（前年：1兆6332億円）で前年を696億円下回った。

輸出金額は、2083億円で前年（2382億円）を299億円下回り、今年は下半期の急ブレーキが影響した結果量、金額とも減少した。

円 レ ー ト

20年の円レート（対USドル）は、年平均103円で前年（118円）より16円の円高となった。

円レートは、85年の9月のプラザ合意以降一時的な円安がみられたものの急速な円高・ドル安傾向が10年間続いた。

しかし、95年秋から円安に転じ、97年以降に証券会社、銀行の倒産が続き金融システム不安等も重なり一層円安が進行し、98年も一時140円台の安値を記録するなど秋口まで円安が進行

した。その後、一時年末にかけて円高(113円)へと反騰したが、99年は夏場までやや円安(114～121円)で推移したが、下半期には急激に円高に反騰し、12月は103円まで急騰した。2000年は年末の円高の103円からスタートで、一時的な円高はあったが、基本的には円安傾向で推移し、年末には111円まで下げた。01年は長引く不況や銀行、ゼネコン、流通分野での倒産、再編もあり、年を跨いで急激な円安が進行し、9、10月に119円とやや円高に戻したものの12月には124円と円安に急落した。02年には131円の円安から始まってその後円高に転じ、8月に118円まで上昇したが、一向に景況感の低迷もあり12月には122円まで下げた。その結果、為替は10年前の水準まで戻した。03年は年初の119円から始まり9月までは2円前後の幅での小さな動きであったが、10月に111円と急騰し、11、12月と小幅円高で推移し108円まで上げた。04年は年初106円の円高で始まり、5月に112円の円安に振れたが、その後は円高に転じ11月以降は104円、103円まで上げた。05年は年初の103円から下半期には円安に変わり7月には110円まで下げ、その後一貫して円安で推移し、12月には119円まで下げ、年末には若干円高となり117円台で推移した。06年、年初は引続き円高の116円でその後も117円とやや円安で推移していたが、5月に112円と円高に振れたが、それ以降は11月の119円までじり安推移し、11、12月と若干の円高に戻した。07年は年末以上に円安の121円に始まり、6月には123円まで円安が進行した。しかし米国のサブプライムローン等の影響もあって、7月以降は円高に振れ、11月には110円まで進み、12月には112円にやや円安となったが、基本的には下半期は円高基調になった。

08年は、年初から円高となり、3月100円まで円高が進んだその後は8月まで円安に振れたが、9月のリーマンショック以降の世界金融危機の拡がりの中で円は急騰し、12月には91円まで上げた。

(参考：84年237円→85年240円→86年170円→87年146円→88年128円→89年137円→90年145円→91年135円→92年127円→93年112円→94年102円→95年94円→96年108円→97年121円→98年131円→99年114円→2000年107円→2001年121円→2002年126円→2003年116円→2004年108円→2005年110円) 2006年→116円、2007年→118円、2008年→102円)

石 油 価 格 (1 k l 当 たり)

20年のA重油価格は、年初は前年来のからの高値を受けて75,000円から始まり3月上旬に78,000円、81,000円、5月上旬85,000円、中旬87,000円、下旬89,000円上昇が続いた。そして6月中旬99,000円、6月下旬に101,000円、7月上旬113,000円、中旬115,000円、しかしその後の8月上旬に113,000円と下落に転じ、中旬114,000円、下旬112,000円、107,000円、9月上旬99,000円、中旬96,000円、91,000円、10月上旬は、87,000円、中旬85,000円、79,000円、下旬77,000円、11月上旬71,000円、66,000円、中旬63,000円、下旬60,000円、56,000円、12月上旬53,000円、中旬51,000円、下旬49,000円(2005年水準)まで下げた。

参考：近年の最高値74,000円/k1 (1982年11月) 75,000円/KL (2007年12月)